

# No. 1051

## メソポタミアの秘宝

—ティグリス・ユーフラテス文明展—

東京国立博物館では、今、東京新聞・中日新聞主催のティグリス・ユーフラテス文明展が開かれています。それに先だつ2月28日、加藤中日新聞社長はじめ、三笠宮さま御夫妻、二階堂官房長官、それにイラク共和国からイサ・サルマン博士らを迎えて、開幕式が行われました。

ティグリス・ユーフラテス両河流域に位置するメソポタミア地方は、九千年の歴史をさかのぼる人類最古の文化発祥の地。「歴史はシュメールに始まる」といわれるシュメール文化、四千年前栄華を誇ったバビロン王朝、初の世界国家を建設したアッシリア帝国、アレキサンダー大王東征がもたらしたパレスチナ文明からイスラーム文化まで、人類一万年の歴史をあらわすこの展覧会は、古代への限りない興味を呼びおこしてくれるでしょう。

## 大阪空港公害訴訟判決

—公共性か環境権か—

音が身体を刺し心をえぐる。爆音の下でやりばのない怒りを押さえて過す毎日。それはまさしく騒音地獄だ。大阪空港周辺。飛行場としての立地条件は世界一悪い。なぜこんなところに飛行場ができたのか。なぜこんなところをジェット機が飛ぶのか。一日平均400回。その下で多くの子供達が鼻血に苦しむ。

実松美智代ちゃん(4歳)もその1人だ。「遊んでも寝ても出るんです。ママ鼻血って、飛行場から鼻血にきくというなんこうをくれたんです。乾いたら鼻の上にくっついて下さい。犬や猫じゃあるまいし。人間だと思っていないんですね」と母親は語る。子供達は飛行機のおもちゃは好きだけど本物は嫌いだという。ジェット機を怪獣ヒョーキゴンと呼び飛行場なんかつぶしたらいいともいう。

激音下の人々が国の公害責任と国の住民へのかかわり方を真向うから問うた大阪空港公害裁判。公共性か環境権か、提訴以来4年2ヶ月に渡って審理は行なわれ2月27日判決を迎えた。

「判決の主文を読み上げます。午後9時から午前7時までの差し止め請求は、午後10時から午前7時迄にとどまりました。過去の損害賠償は最高50万から10万まで4ランクに分かれ、3人については棄却があります。将来請求については棄却されました。この判決は住民に何ももたらさない全く不当な判決です。」「裁判のやり直しだ。こんな判決があるか。」「我々を人間として考えていない」一部国の責任を認めながらも、住民にとって実質的に敗訴に等しい判決。この判決では現状と何も違いはない。「なぜこんな判決が……」絶句のまま原告の1人は泣きぐずれた。原告団は翌28日、運輸省につめかけ徳永大臣に午後9時以降の飛行禁止や減便防音対策更には飛行場移転などをせまった。席上具体的な何も示されず、ただ努力しますという声のみであった。更に三木環境庁長官にも詰めよる。しかしここでも、減便するよう運輸省に言うが、今のところ午後9時からの飛行禁止は考えていないというものであった。

住民の環境を破壊しての公共性などあり得ないと叫ぶ原告。しかし受忍限度内だと主張する国側。その間の中で、住民はいつまで騒音地獄に耐えねばならないのか。今日も身体を通りぬける激音を残してジェット機は飛ぶ。